令和２年度施設関係者評価

令和3年3月28日

報告者氏名　　菊地　弘子
評価者氏名　　菊地　芳子

全体評価

・コロナウイルス感染症により例年とは全く違った生活になり、特に行事の中止は残念でしたが、代替の活動が子供たちにたくさんの経験を積ませ、楽しいものとなったと感じる。
・まちコミやHPによる素早い発信があったので、送り迎えができない保護者もコーナー保育など日々の子供たちの様子を知ることができた。避難訓練や小学校訪問など子供たちの安心や期待につながる活動になったと感じている。

個別評価

評価項目		実施状況	評価
教育課程指導	全体計画の立案、実践	４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.6
	年齢別指導計画	年案、月案、週案作成	4.6
	保育の記録	日々の保育記録（日誌） 保育ドキュメントの作成	4.6
保健管理	学校保健計画	看護師を中心に４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.6
安全管理	学校安全計画	幹部職員を中心に４月計画作成、随時評価、３月評価反省及び改善事項の洗い出し	4.6
特別支援教育	発達支援	保健センターとの連携あり	4.3
組織運営	園務分掌	職位・分掌	4.6
	職員会議	リモート会議月２回（全職員）	4.6
	運営会議	対面で月１回（副主幹以上）	4.6
	給食会議	書面で意見交換	4.6
研修	園内研修	免許更新講習該当者なし 園内研修：公開保育（動画公開）	4
	外部研修	オンラインで実施	4
教育目標	「根気強く取り組む子・思いやりがある子・挨拶ができる子」	保育活動の中で具現化	5
情報提供	お知らせ	園だより・一斉メールの活用	5
	保育内容	ホームページに掲載（ブログ・ツイッター他）	5
保護者との連携	行事への招待、保育の公開	運動的行事参観（３歳以上）、保育ドキュメント	4
地域住民との連携	行事への招待	なし	4
子育て支援	子育て支援室	予約による受け入れ・支援室の新築	4.3
預かり保育		１号認定児に対する　午後の預かりを実施	5
教育環境整備	教育環境整備	主幹保育教諭、用務員を中心に整備	4.6
食育	食育活動	調理担当を中心に食育計画作成 野菜、コメ栽培	5
養護	健康支援	午睡チェック　　０才　５分毎 １才　１０分毎	5
苦情解決		掲示あり　　記録簿あり	4

その他

昨今、先生の入れ替わりが多いのが気になる。
オンライン研修など活用し、より良い保育園になってくれることを期待する。

令和２年度 施設関係者評価　会議

令和３年３月１９日（金）１７：３０～１８：００

目　的：保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り管理面、運営面等の改善協力を促進する。

1. 保育者の自己評価（２０１０年度より実施）

「平成30年度施行幼保連携型認定こども園新教育・保育要領」に基づく
自己チェックリスト100」　　（保育総合研究会監修）

○実施方法：年２回（８月・１月）実施　　項目ごとに４段階評価

８月は前期の振り返りを行い、達成度や課題の確認を行った。

１月は年間を通した振り返りを行い、クラス運営、園全体、次年度への課題を明らかにした。

○集計方法：「十分している」および「している」の数値を集計

＜自己評価集計結果＞

①保育関係15（園長・支援担当含む）　１００項目

Ⅰ	園の基本姿勢について	98.7%	（前年91%）
Ⅱ	教育保育要領理解と実践		
	総則	74.5%	（前年76%）
	内容・配慮事項	72.2%	（前年76%）
	健康安全	80.5%	（前年81%）
	子育ての支援	60.0%	（前年77%）
Ⅲ	独自の取り組み	76.7%	（前年75%）

②給食関係４　　１５０項目　食育50%・食事の提供77%・衛生管理97%

③看護・支援３　　１００項目のうちの該当部分のみ

＜考察＞

集計結果から、認定こども園としての姿勢については　共通理解が深まったといえる。

保育の理解と実践は全体的に微減傾向である。項目で見ると、疾病対策は特に意識的に取り組んだので高い値となっている。一方で、小学校との接続や諸機関との連携、地域の子育て支援に対し「ふつう」「努力」と回答がみえる。これらについては、感染防止のため交流の機会が少なかったことが大きな要因だと考える。

園独自項目として職種間の連携協働、研修への参加等を掲げた。特に研修の機会が少なかったことで、取り組みに対する評価が低くなった。

給食関係では、園児との交流減（食育活動）や保護者への指導が課題となっている。

看護では、専門分野でもあり、園全体を見通した配慮ができたことがうかがえる。

子育て支援では、支援室を縮小、閉鎖したため新しい取り組みができなかったことが「十分できた」という評価に至らなかった要因となっている。

クラス運営に関しては、すべてのクラスで年齢なりの課題に沿い、子供たちとかかわりを深めることができた。一方で行事が少ないことで成長を讃えてもらう機会は減ったのが残念と述べている。今後は、行事の在り方についての検討が重要だと感じている。

２．園の自己評価

①保健衛生

４月１３日から５月末まで緊急特別保育および分散登園となり、子供たちに会えない日々が続いた。この間、担任による電話連絡等で健康チェック等を実施した。

再開後は、「新しい生活様式」を参考に換気方法、手洗い指導、マスク着用に気を配り、加えてリーバーの導入による体調管理も軌道に乗ってきている。

３７．５度という基準値は厳しいものの今後も保護者の方々のご協力をいただきつつ、エッセンシャルワーカーとして社会的要請にこたえる運営を続けていきたい。

②保護者とのコミュニケーション

・前年度の保護者アンケートに基づき、すべての意見に対して職員間での話し合いを行った。手法や見通しについての統計とすべての意見に対する回答を行い、公表（園内掲示）し、改善に取り組んだ。

・保護者の立ち入りをお断りする形になったが、園での変化や成長の様子などはできるだけ個別にやり取りする時間をとるように心掛けた。

・子供の育ちの理解を深めるために動画公開に取り組んだ。今後も工夫していきたい。

③園の組織化と保育の質の向上

・職員間の感染防止として、月２回の定例会議をリモートにし、分散化を行った。

・月１回の運営会議、臨時会議は少人数での対面会議とした。

・給食会議は保育日誌の記録検証と協議資料への書き込みにより書面で実施した。

・園内研修は救急法や消火訓練など講師の要請ができないため、看護師による保健研修を新規採用者中心に実施した。

・外部研修のほとんどがオンラインになった。会場への移動が不要で複数職員での参加が可能となり、課題の共有や実践の検証に役立てている。（延べ 11 名）
オンラインの利点を生かし、今後も積極的に参加、研鑽していきたい。

・今年度より保育参観とは別に公開保育の取り組みを実施。この取り組みは、法的に学校として位置づけられている幼保連携型認定こども園の保育者の関わり方や保育の内容について質の向上を図ることを目的としている。本来ならば他園の先生や大学の教授を招いて実施するとことだが、今年度はコロナ禍ということもあり、撮影した動画（３歳児クラスの公開保育）を対象クラスの保護者に承諾を得た上で直接送り、視聴の上評価を頂戴した。
他者から頂く評価は、保育者の意識や技術の向上に欠かせないものであるため、今後も続けていきたいと考えている。

今年度は遊びの充実をめざし、コーナー保育に取り組んだ。子供同士の交流の制限、身体的距離を保ちながらの保育は迷うことも多かった半面、保育者の自己評価にもあるように、それぞれが工夫を凝らしながら、環境設定や活動の様子を見つめることができたと感じている。コロナウイルス感染症拡大は大きなピンチではあったが、「楽しく遊んだ一日」を刻むべく協力して取り組むことができた。

衛生管理の強化や新しい生活習慣の確立、行事の分散化や個別化を図りながら、園全体として新しい形を探す大きなステップとすることができたと感じている。

年度末のアンケートもすでに実施。回収率は81.6％にのぼった。

保育者の思いを十分に受け止めていただき、大変ありがたく感じる。

できたこと、できなかったことを共有し、行事をはじめとする保護者の期待を受け止めながら、将来をたくましく生きていく心や体の育ちを応援していきたい。